



2022年度（2023年3月期）  
第1四半期決算

# 参考資料

2022年8月5日

エーザイ株式会社

お問い合わせ

PR部： TEL 03-3817-5120

IR部： TEL 070-8688-9685

<https://www.eisai.co.jp/>

## 【将来予想に関する事項と事業等のリスク】

本発表において提供される資料ならびに情報は、現在における予想、目標、評価、見通し、リスクを伴う想定などの不確実性に基づくものを含んでいます。従って、さまざまな要因の変化により、将来予想などが実際の結果と大きく乖離する可能性があります。リスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった日本および国際的な経済状況が含まれています。

当社グループの業績を大幅に変動させる、あるいは投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクや不確実性は、次のとおりです。ただし、これらは当社グループに係るすべてのリスクや不確実性を網羅したものではなく、現時点において予見できない、あるいは重要とみなされていない他の要因の影響を将来的に受ける可能性があります。

なお、これらは本発表日現在において判断したものであり、文中の将来に関する事項はその発生あるいは達成を保証するものではありません。

企業理念にもとづく経営に関するリスク、次世代AD治療剤の価値最大化に関するリスク、レンビマの価値最大化に関するリスク、パートナーシップモデルに関するリスク、デジタルトランスフォーメーションに関するリスク、新薬開発の不確実性に関するリスク、副作用発現のリスク、製品品質および安定供給に関するリスク、知的財産に関するリスク、訴訟に関するリスク、データの信頼性に関するリスク、医療費抑制策に関するリスク、サクセッションに関するリスク、人財の確保と育成に関するリスク、情報セキュリティに関するリスク、新型コロナウイルス感染症に関するリスク、気候変動に関するリスク、のれんや無形資産の減損に関するリスク

## 目次

1. 連結損益計算書	1
2. セグメント情報	2
3. 報告セグメント別情報	3
4. 主力品売上収益	7
5. セグメント別売上収益見通し	9
6. 連結包括利益計算書	10
7. 連結キャッシュ・フロー計算書	11
8. 資本的支出及び減価償却費の状況	12
9. 連結財政状態計算書	12
10. 連結四半期業績の推移	14
11. 主要開発品	17

### 為替レート

		米国 (米ドル/円)	欧州 (ユーロ/円)	英国 (ポンド/円)	中国 (人民元/円)
2021年度 第1四半期	期中平均レート	109.49	131.96	153.20	16.95
	期末日レート	110.58	131.58	153.16	17.11
2021年度 通期	期中平均レート	112.37	130.56	153.55	17.51
	期末日レート	122.39	136.70	160.89	19.26
2022年度 第1四半期	期中平均レート	129.57	138.11	162.96	19.57
	期末日レート	136.68	142.67	165.71	20.38
2022年度	予想レート	125.00	130.00	151.50	19.00

- 当社の連結財務諸表は国際会計基準（IFRS）にて開示しています。
- 当社グループは、セグメントを医薬品事業とその他事業に区分しており、医薬品事業を構成する日本、アメリカス（北米）、中国、EMEA（欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア）、アジア・ラテンアメリカ（韓国、台湾、インド、アセアン、中南米等）、一般用医薬品等（日本）の6つの事業セグメントを報告セグメントとしています。2022年度において、香港をアジア・ラテンアメリカ医薬品事業から中国医薬品事業にセグメント変更しました。2021年度のセグメント情報は、当該変更が反映されています。
- 決算短信添付資料15頁に記載の通り、2021年度に会計方針の変更を行い、2021年度数値に遡及適用しています。
- 当資料中の数字は、四捨五入で表示しています。

## 1. 連結損益計算書

(億円、%)

	2021年度				2022年度				2022年度	
	1Q	売上比	通期	売上比	1Q	売上比	前同比	増減額	通期予想	売上比
売上収益	1,989	100.0	7,562	100.0	1,843	100.0	92.6	△ 146	7,000	100.0
売上原価	392	19.7	1,748	23.1	474	25.7	120.8	82	1,605	22.9
売上総利益	1,596	80.3	5,814	76.9	1,369	74.3	85.7	△ 228	5,395	77.1
販売費及び一般管理費	748	37.6	3,664	48.5	923	50.1	123.4	175	3,390	48.4
販売費	324	16.3	1,904	25.2	502	27.3	155.0	178	—	—
人件費	227	11.4	1,013	13.4	240	13.0	105.9	13	—	—
管理費他	197	9.9	748	9.9	181	9.8	91.6	△ 17	—	—
研究開発費	418	21.0	1,717	22.7	385	20.9	92.1	△ 33	1,590	22.7
その他の収益	134	6.8	146	1.9	25	1.3	18.3	△ 110	135	1.9
その他の費用	11	0.6	41	0.5	11	0.6	94.4	△ 1	—	—
営業利益	553	27.8	537	7.1	74	4.0	13.4	△ 479	550	7.9
金融収益	7	0.4	24	0.3	27	1.5	359.7	19	—	—
金融費用	4	0.2	17	0.2	4	0.2	108.8	0	—	—
税引前四半期（当期）利益	557	28.0	545	7.2	97	5.3	17.4	△ 460	565	8.1
法人所得税	135	6.8	87	1.2	△182	△9.9	—	△ 317	—	—
四半期（当期）利益	423	21.2	457	6.0	280	15.2	66.2	△ 143	580	8.3
四半期（当期）利益の帰属										
親会社所有者	421	21.2	480	6.3	269	14.6	63.9	△ 152	570	8.1
非支配持分	1	0.1	△22	△0.3	11	0.6	746.1	9	—	—

四半期（当期）包括利益	424	21.3	908	12.0	797	43.3	188.1	373
-------------	-----	------	-----	------	-----	------	-------	-----

EPS（円）	146.89	167.27	93.81	197.80
DPS（円）	—	160.0	—	160.0
ROE（%）	—	6.6	—	7.5
DOE（%）	—	6.3	—	6.1

・通期予想のその他の収益は、その他の費用を控除して表示しています。

・EPS：基本的1株当たり四半期（当期）利益、DPS：1株当たり配当金、ROE：親会社所有者帰属持分当期利益率、DOE：親会社所有者帰属持分配当率

## &lt;コメント&gt;

■売上収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗がん剤「レンビマ」の大幅な伸長：当期 663億円、前年同期 442億円</li> <li>前年同期は、抗体薬物複合体「MORAb-202」に関する戦略的提携によりBristol Myers Squibbより一時金を受領：496億円</li> </ul>
■販売費及び一般管理費	<ul style="list-style-type: none"> <li>米メルク社へ支払う「レンビマ」の折半利益を費用計上：当期 317億円、前年同期 198億円</li> </ul>
■研究開発費	<ul style="list-style-type: none"> <li>「レンビマ」の欧州における腎細胞がんの併用療法の承認取得及び保険償還取得により、米メルク社からの開発マイルストーンペイメント32億円を戻入として計上するなど、パートナーシップモデルを活用した費用負担の抑制（パートナー負担額：当期175億円、前年同期108億円）</li> </ul>
■法人所得税	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社の資本政策の一環としてグローバルな資金配分の最適化を企図し、米国連結子会社から資金を回収するために当社が米国連結子会社から払込資本の払戻しを受けた結果、税務上の譲渡損失等が当社にて発生し、法人所得税が減少</li> </ul>
■為替による影響額	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上収益：+155.6億円、営業利益：△62.8億円</li> </ul>
■為替感応度 （1円の円安に対しての年間影響額）	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上収益：米ドル +16.6億円、ユーロ +3.1億円、英ポンド +0.9億円、人民元 +69.8億円</li> <li>営業利益：米ドル △15.0億円、ユーロ +2.0億円、英ポンド △0.1億円、人民元 +35.9億円</li> </ul>

・2022年3月にバイオジェン社と合意したアルツハイマー病治療剤「Aduhelm」の提携契約の変更に伴い設定された「Aduhelm」関連費用の当社負担上限額 335百万米ドルの残額110百万米ドル（2022年4月～12月）に対して、販売費及び一般管理費ならびに研究開発費合計で51百万米ドルを当期に計上しています。

## 2. セグメント情報

## 1) 売上収益

(億円、%)

	2021年度		2022年度		
	1Q	通期	1Q	前同比	為替影響除く 前同比
医薬品事業（報告セグメント）計	1,472	6,263	1,813	123.2	112.8
日本 医薬品事業	496	2,140	575	115.8	115.8
アメリカス 医薬品事業	383	1,720	531	138.5	117.1
米国	377	1,695	522	138.4	117.0
中国 医薬品事業	274	1,084	348	127.1	110.0
EMEA 医薬品事業	141	593	181	128.1	118.0
アジア・ラテンアメリカ 医薬品事業	126	486	120	95.0	86.4
一般用医薬品等	52	238	60	115.3	115.3
その他事業	517	1,299	29	5.6	5.3
連結売上収益	1,989	7,562	1,843	92.6	84.8

\* 外部顧客に対する売上収益を示しています。

## 2) セグメント利益

(億円、%)

	2021年度		2022年度		
	1Q	通期	1Q	前同比	為替影響除く 前同比
医薬品事業（報告セグメント）計	681	2,689	906	133.1	123.2
日本 医薬品事業	156	610	216	138.9	138.9
アメリカス 医薬品事業	217	956	313	144.0	132.3
中国 医薬品事業	164	570	208	126.4	111.4
EMEA 医薬品事業	81	301	102	127.1	112.1
アジア・ラテンアメリカ 医薬品事業	57	204	53	94.0	85.3
一般用医薬品等	7	47	14	207.8	207.8
その他事業	498	1,216	5	1.0	0.7
研究開発費	△418	△1,717	△385	92.1	76.8
親会社の本社管理費等*	△208	△1,650	△452	217.2	184.7
連結営業利益	553	537	74	13.4	24.8

\* パートナーとの戦略的提携に伴う利益および費用の折半金額を含めています。

\* 2022年3月にバイオジェン社との「Aduhelm」に関する共同開発・共同販促契約が変更されたことを受け、2022年度より、当社が負担する「Aduhelm」の関連費用（販売費及び一般管理費）を親会社の本社管理費等を含めています。加えて、固定資産売却損益を親会社の本社管理費等を含めています。これに伴い、2021年度のセグメント情報は当該変更を反映しています。

### 3. 報告セグメント別情報

#### 1) 日本 医薬品事業（医療用医薬品）

(億円、%)

	2021年度		2022年度	
	1Q	通期	1Q	前同比
売上収益	496	2,140	575	115.8
セグメント利益	156	610	216	138.9
<b>日本 医療用医薬品 主力品売上収益</b>				
ヒト型抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体 ヒュミラ	114	506	126	110.1
不眠症治療剤 デエビゴ	19	127	53	285.2
抗がん剤 レンビマ	25	103	36	144.3
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	24	108	27	111.5
抗がん剤 ハラヴェン	20	83	22	113.6
成分栄養剤 エレンタール*	17	68	18	109.6
慢性便秘症治療剤 グーフィス*	14	61	17	115.3
プロトンポンプ阻害剤 パリエット*	17	71	16	94.3
抗てんかん剤 フィコンパ	12	54	16	126.0
慢性便秘症治療薬 モピコール*	11	49	16	139.7
ヤヌスキナーゼ阻害剤 ジセラカ	1	15	13	979.3
アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤 アリセプト	18	69	12	69.4

\* パリエットには、ヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤組み合わせバック製剤「ラベキュアバック400/800」および「ラベファインバック」の売上収益を含めています。

\* EAファーマの取り扱い製品です。



### 3) 中国 医薬品事業

(億円、%)

	2021年度		2022年度	
	1Q	通期	1Q	前同比
売上収益	274	1,084	348	127.1 <110.0>
セグメント利益	164	570	208	126.4 <111.4>
<b>中国 主力品売上収益</b>				
抗がん剤 レンビマ	108	358	139	128.5 <111.3>
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	33	127	44	132.8 <115.0>
プロトンポンプ阻害剤 バリエット	23	91	23	100.6 <87.1>
肝臓疾患用剤・アレルギー用薬 強カネオミノファーゲンシー／グリチロン錠	23	95	20	85.9 <74.4>
アルツハイマー型認知症治療剤 アリセプト	14	53	16	113.1 <98.0>
抗てんかん剤 Fycompa	2	12	6	234.9 <203.4>
抗がん剤 ハラヴェン	9	16	6	58.5 <50.6>

・前同比の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

### 4) EMEA 医薬品事業（欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア）

(億円、%)

	2021年度		2022年度	
	1Q	通期	1Q	前同比
売上収益	141	593	181	128.1 <118.0>
セグメント利益	81	301	102	127.1 <112.1>
<b>EMEA 主力品売上収益</b>				
抗がん剤 レンビマ／Kisplyx	48	218	81	167.1 <153.8>
抗がん剤 ハラヴェン	34	128	35	103.4 <92.7>
抗てんかん剤 Fycompa	22	92	28	129.2 <119.7>
抗てんかん剤 イノベロン	7	27	7	110.7 <103.8>

・前同比の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

5) アジア・ラテンアメリカ 医薬品事業

(億円、%)

	2021年度		2022年度	
	1Q	通期	1Q	前同比
売上収益	126	486	120	95.0 <86.4>
セグメント利益	57	204	53	94.0 <85.3>
<b>アジア・ラテンアメリカ 主力品売上収益</b>				
アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤 アリセプト	30	118	33	109.9 <102.3>
抗がん剤 レンピマ	17	79	23	134.3 <121.0>
プロトンポンプ阻害剤 バリエット	12	40	11	90.9 <82.7>
抗がん剤 ハラヴェン	6	23	8	133.0 <117.7>
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	8	35	8	90.3 <80.8>
抗てんかん剤 Fycompa	3	15	4	119.5 <108.9>

・前同比の< >内は為替の影響を除いた数値を示しています。

・アリセプトのレビー小体型認知症の適応は日本、フィリピン、タイです。

6) 一般用医薬品等

(億円、%)

	2021年度		2022年度	
	1Q	通期	1Q	前同比
売上収益	52	238	60	115.3
セグメント利益	7	47	14	207.8
<b>一般用医薬品等 主力品売上収益</b>				
ビタミンB2主剤「チョコラBBプラス」等 チョコラBBグループ	35	143	39	111.3

## 4. 主力品売上収益

### 1) ニューロロジー領域製品

(億円、%)

	2021年度		2022年度	
	1Q	通期	1Q	前同比
ニューロロジー領域製品計	341	1,356	371	108.8 <97.6>
フィコンパ/Fycompa (抗てんかん剤)	74	319	99	133.1 <119.4>
日本	12	54	16	126.0
アメリカス	34	146	46	132.6 <112.2>
中国	2	12	6	234.9 <203.4>
EMEA	22	92	28	129.2 <119.7>
アジア・ラテンアメリカ	3	15	4	119.5 <108.9>
メチコパール (末梢性神経障害治療剤)	68	281	82	121.2 <111.3>
日本	24	108	27	111.5
中国	33	127	44	132.8 <115.0>
アジア・ラテンアメリカ	8	35	8	90.3 <80.8>
デエビゴ/Dayvigo (不眠症治療剤)	26	164	65	247.1 <240.4>
日本	19	127	53	285.2
アメリカス	8	37	11	147.4 <125.6>
アリセプト (アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤)	63	244	63	98.7 <91.6>
日本	18	69	12	69.4
中国	14	53	16	113.1 <98.0>
アジア・ラテンアメリカ	30	118	33	109.9 <102.3>
イノベロン/Banzel (抗てんかん剤)	37	103	18	48.7 <43.7>
アメリカス	28	70	9	30.6 <25.9>
EMEA	7	27	7	110.7 <103.8>
その他	73	245	45	61.7 <60.3>

・前同士の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

・アリセプトのレビー小体型認知症の適応は日本、フィリピン、タイです。

2) オンコロジー領域製品

(億円、%)

	2021年度		2022年度	
	1Q	通期	1Q	前同比
オンコロジー領域製品計	561	2,385	797	142.1 <124.1>
レンビマ/Kisplyx (抗がん剤)	442	1,923	663	150.0 <130.4>
日本	25	103	36	144.3
アメリカス	244	1,165	385	157.8 <133.4>
中国	108	358	139	128.5 <111.3>
EMEA	48	218	81	167.1 <153.8>
アジア・ラテンアメリカ	17	79	23	134.3 <121.0>
ハラヴェン (抗がん剤)	102	394	111	109.7 <98.3>
日本	20	83	22	113.6
アメリカス	33	143	41	124.7 <105.5>
中国	9	16	6	58.5 <50.6>
EMEA	34	128	35	103.4 <92.7>
アジア・ラテンアメリカ	6	23	8	133.0 <117.7>
その他	17	68	22	130.9 <116.3>

・前同比の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

## 5. セグメント別売上収益見通し（2022年度）

	2021年度		2022年度	
	1Q	通期	1Q	通期予想
(億円)				
<b>日本（医療用医薬品）</b>	496	2,140	575	2,010
ヒト型抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体 ヒュミラ	114	506	126	415
不眠症治療剤 デエビゴ	19	127	53	180
抗がん剤 レンビマ	25	103	36	135
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	24	108	27	90
抗がん剤 ハラヴェン	20	83	22	85
慢性便秘症治療剤 グーフイス*	14	61	17	70
抗てんかん剤 フィコンパ	12	54	16	65
成分栄養剤 エレンタール*	17	68	18	65
プロトンポンプ阻害剤 パリエット*	17	71	16	60
慢性便秘症治療薬 モビコール*	11	49	16	55
<b>アメリカス</b>	383	1,720	531	1,985
<b>米国</b>	377	1,695	522	1,955
<b>中国</b>	274	1,084	348	975
<b>EMEA</b>	141	593	181	595
<b>アジア・ラテンアメリカ</b>	126	486	120	455
<b>一般用医薬品等</b>	52	238	60	245
ビタミンB2主剤「チョコラBBプラス」等 チョコラBBグループ	35	143	39	145
<b>その他</b>	517	1,299	29	735
<b>連結売上収益</b>	<b>1,989</b>	<b>7,562</b>	<b>1,843</b>	<b>7,000</b>
<b>主要品目グローバル売上収益</b>				
レンビマ/Kisplyx	442	1,923	663	2,180
日本	25	103	36	135
アメリカス	244	1,165	385	1,455
中国	108	358	139	235
EMEA	48	218	81	265
アジア・ラテンアメリカ	17	79	23	90
ハラヴェン	102	394	111	380
日本	20	83	22	85
アメリカス	33	143	41	115
中国	9	16	6	20
EMEA	34	128	35	130
アジア・ラテンアメリカ	6	23	8	30
フィコンパ/Fycompa	74	319	99	375
日本	12	54	16	65
アメリカス	34	146	46	175
中国	2	12	6	20
EMEA	22	92	28	100
アジア・ラテンアメリカ	3	15	4	15
デエビゴ/Dayvigo	26	164	65	270
日本	19	127	53	180
アメリカス	8	37	11	90

\* EAファーマの取り扱い製品です。

## 6. 連結包括利益計算書

(億円、%)

	2021年度		2022年度		
	1Q	通期	1Q	前同比	増減額
四半期(当期)利益	423	457	280	66.2	△ 143
その他の包括利益					
損益に振り替えられることのない項目					
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	△ 12	△ 8	27	—	39
確定給付制度に係る再測定	—	△ 11	—	—	—
小計	△ 12	△ 19	27	—	39
損益にその後に振り替えられる可能性のある項目					
在外営業活動体の換算差額	13	469	490	3858.9	477
キャッシュ・フロー・ヘッジ	0	1	△ 0	—	△ 0
小計	13	470	490	3800.6	477
その他の包括利益合計	1	451	517	46244.7	516
四半期(当期)包括利益	424	908	797	188.1	373
四半期(当期)包括利益の帰属					
親会社所有者	422	930	786	186.2	364
非支配持分	1	△ 22	11	763.9	10

## 7. 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2021年度	2022年度	
	1Q	1Q	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益	557	97	△ 460
減価償却費及び償却費	93	98	5
運転資本の増減額 (△は増加)	△ 633	△ 11	623
利息及び配当金の受取額	7	7	△ 0
利息の支払額	△ 3	△ 3	△ 0
法人所得税の支払額	△ 23	△ 45	△ 23
その他	△ 143	△ 103	40
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 145	39	184
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 121	△ 116	5
無形資産の取得による支出	△ 25	△ 43	△ 17
有形固定資産・無形資産の売却による収入	133	2	△ 131
金融資産の取得による支出	△ 5	△ 9	△ 4
金融資産の売却・償還による収入	22	0	△ 22
小計<資本的支出等(キャッシュベース)>	4	△ 166	△ 169
3カ月超預金の預入による支出	△ 0	△ 0	0
その他	△ 0	△ 3	△ 2
投資活動によるキャッシュ・フロー	3	△ 168	△ 172
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増減額 (△は減少)	28	—	△ 28
長期借入金の返済による支出	—	△ 0	△ 0
リース負債の返済による支出	△ 25	△ 24	2
配当金の支払額	△ 229	△ 229	△ 0
その他	2	1	△ 1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 225	△ 252	△ 27
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	163	153
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 357	△ 218	138
現金及び現金同等物の期首残高	2,487	3,096	609
現金及び現金同等物の期末残高	2,131	2,878	747

フリー・キャッシュ・フロー	△ 141	△ 126	15
---------------	-------	-------	----

・フリー・キャッシュ・フロー＝(営業活動によるキャッシュ・フロー)－(資本的支出等(キャッシュベース))

## &lt;コメント&gt;

- 投資活動によるキャッシュ・フロー  
研究設備および製造設備の増強を進めたことによる支出が発生
- 財務活動によるキャッシュ・フロー  
配当金の支払いを実施

## 8. 資本的支出及び減価償却費の状況

(億円)

	2021年度		2022年度		
	1Q	通期	1Q	増減額	通期予想
資本的支出額（キャッシュベース）	147	405	159	12	500
有形固定資産	121	290	116	△5	285
無形資産	25	114	43	17	215
減価償却費及び償却費	93	384	98	5	395
有形固定資産	53	218	56	3	220
無形資産	40	166	42	2	175

## 9. 連結財政状態計算書

### <資産の部>

(億円、%)

	2021年度		6月末	2022年度		
	3月末	構成比		構成比	前期末比	増減額
資産						
非流動資産						
有形固定資産	1,699	13.7	1,729	13.6	101.8	30
のれん	1,918	15.5	2,138	16.8	111.5	220
無形資産	955	7.7	939	7.4	98.4	△15
その他の金融資産	440	3.6	492	3.9	111.8	52
その他	209	1.7	207	1.6	99.0	△2
繰延税金資産	766	6.2	1,014	8.0	132.3	248
非流動資産合計	5,987	48.3	6,519	51.2	108.9	532
流動資産						
棚卸資産	990	8.0	1,035	8.1	104.5	45
営業債権及びその他の債権	2,079	16.8	1,989	15.6	95.7	△90
その他の金融資産	4	0.0	26	0.2	611.4	22
その他	236	1.9	280	2.2	118.9	45
現金及び現金同等物	3,096	25.0	2,878	22.6	93.0	△218
流動資産合計	6,406	51.7	6,209	48.8	96.9	△197
資産合計	12,393	100.0	12,729	100.0	102.7	336

### <コメント>

<p>■資産の部 (繰延税金資産)</p>	<p>当社の資本政策の一環としてグローバルな資金配分の最適化を企図し、米国連結子会社から資金を回収するために当社が米国連結子会社から払込資本の払戻しを受けた結果、税務上の譲渡損失等が当社にて発生した影響により増加</p>
<p>(現金及び現金同等物)</p>	<p>配当金の支払い等に伴う減少</p>

<資本及び負債の部>

(億円、%)

	2021年度		2022年度			
	3月末	構成比	6月末	構成比	前期末比	増減額
資本						
親会社の所有者に帰属する持分						
資本金	450	3.6	450	3.5	100.0	—
資本剰余金	776	6.3	776	6.1	100.0	△ 0
自己株式	△ 339	△ 2.7	△ 339	△ 2.7	99.9	0
利益剰余金	5,066	40.9	5,133	40.3	101.3	67
その他の資本の構成要素	1,536	12.4	2,025	15.9	131.9	490
親会社の所有者に帰属する持分合計	7,488	60.4	8,045	63.2	107.4	557
非支配持分	227	1.8	238	1.9	104.8	11
資本合計	7,715	62.3	8,283	65.1	107.4	568
負債						
非流動負債						
借入金	949	7.7	849	6.7	89.5	△ 100
その他の金融負債	392	3.2	383	3.0	97.8	△ 9
引当金	15	0.1	15	0.1	102.6	0
その他	184	1.5	171	1.3	93.2	△ 13
繰延税金負債	5	0.0	7	0.1	151.0	2
非流動負債合計	1,544	12.5	1,426	11.2	92.3	△ 118
流動負債						
借入金	—	—	100	0.8	—	100
営業債務及びその他の債務	1,081	8.7	961	7.6	88.9	△ 120
その他の金融負債	409	3.3	423	3.3	103.6	15
未払法人所得税	69	0.6	90	0.7	131.4	22
引当金	179	1.4	219	1.7	122.1	40
その他	1,396	11.3	1,225	9.6	87.8	△ 171
流動負債合計	3,133	25.3	3,019	23.7	96.3	△ 114
負債合計	4,678	37.7	4,445	34.9	95.0	△ 233
資本及び負債合計	12,393	100.0	12,729	100.0	102.7	336

<コメント>

<p>■資本の部 (その他の資本の構成要素)</p>	<p>円安の進行に伴う在外営業活動体の換算差額の増加</p>
<p>■負債の部 (借入金－流動・非流動) (営業債務及びその他の債務) (その他－流動)</p>	<p>非流動負債から流動負債への振替 主にパートナーに対する未払金の減少 主に未払費用の減少</p>

## 10. 連結四半期業績の推移

### 1) 損益計算書項目

	2021年度				2022年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上収益	1,989	1,635	2,030	1,909	1,843
売上原価	392	406	442	507	474
売上総利益	1,596	1,228	1,588	1,402	1,369
販売費及び一般管理費	748	799	1,015	1,103	923
販売費	324	403	537	640	502
人件費	227	229	283	274	240
管理費他	197	166	195	189	181
研究開発費	418	381	434	485	385
その他の収益	134	2	4	5	25
その他の費用	11	△3	7	26	11
営業利益	553	54	136	△206	74
金融収益	7	5	6	5	27
金融費用	4	4	4	5	4
税引前四半期利益	557	54	139	△206	97
法人所得税	135	13	8	△69	△182
四半期利益	423	41	130	△137	280
四半期利益の帰属					
親会社所有者	421	39	142	△122	269
非支配持分	1	2	△11	△15	11
四半期包括利益	424	79	262	143	797
EPS (円)	146.89	13.72	49.39	△42.72	93.81

・EPS：基本的1株当たり四半期利益

### 2) キャッシュ・フロー計算書項目

	2021年度				2022年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	△145	824	46	451	39
投資活動によるキャッシュ・フロー	3	△78	△105	△109	△168
財務活動によるキャッシュ・フロー	△225	△54	△255	45	△252
現金及び現金同等物の期末残高	2,131	2,830	2,584	3,096	2,878
フリー・キャッシュ・フロー	△141	746	△59	341	△126

・フリー・キャッシュ・フロー＝（営業活動によるキャッシュ・フロー）－（資本的支出等（キャッシュベース））

### 3) 資本的支出及び減価償却費の状況

(億円)

	2021年度				2022年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
資本的支出額（キャッシュベース）	147	68	104	86	159
有形固定資産	121	61	38	70	116
無形資産	25	7	66	16	43
減価償却費及び償却費	93	97	97	97	98
有形固定資産	53	55	55	55	56
無形資産	40	42	42	42	42

### 4) 財政状態計算書項目

(億円)

	2021年度				2022年度
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末
資産	11,277	11,384	11,656	12,393	12,729
資本	7,457	7,536	7,569	7,715	8,283
親会社の所有者に帰属する持分	7,209	7,286	7,330	7,488	8,045
負債	3,820	3,848	4,087	4,678	4,445
借入金	927	899	899	949	949
親会社所有者帰属持分比率（％）	63.9	64.0	62.9	60.4	63.2
負債比率（Net DER／倍）	△0.20	△0.30	△0.26	△0.32	△0.28

・負債比率（Net DER）＝（有利子負債（借入金）－現金及び現金同等物－3カ月超預金等－親会社保有投資有価証券）÷親会社の所有者に帰属する持分

## 5) 主力品売上収益の四半期推移

### (1) ニューロロジー領域製品

(億円)

	2021年度				2022年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
<b>ニューロロジー領域製品計</b>	341	333	361	322	371
<b>フィコンパ/Fycompa (抗てんかん剤)</b>	74	77	84	83	99
日本	12	14	15	13	16
アメリカス	34	35	38	38	46
中国	2	3	3	4	6
EMEA	22	22	24	25	28
アジア・ラテンアメリカ	3	4	4	4	4
<b>メチコパール (末梢性神経障害治療剤)</b>	68	73	77	64	82
日本	24	28	29	25	27
中国	33	33	33	27	44
アジア・ラテンアメリカ	8	9	9	8	8
<b>デエビゴ/Dayvigo (不眠症治療剤)</b>	26	37	50	51	65
日本	19	29	39	41	53
アメリカス	8	8	11	10	11
<b>アリセプト (アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤)</b>	63	61	65	55	63
日本	18	19	19	13	12
中国	14	12	15	11	16
アジア・ラテンアメリカ	30	29	30	29	33
<b>イノベロン/Banzei (抗てんかん剤)</b>	37	26	24	16	18
アメリカス	28	18	15	8	9
EMEA	7	7	7	7	7
<b>その他</b>	73	58	61	53	45

・アリセプトのレビー小体型認知症の適応は日本、フィリピン、タイです。

### (2) オンコロジー領域製品

(億円)

	2021年度				2022年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
<b>オンコロジー領域製品計</b>	561	591	608	625	797
<b>レンビマ/Kisplyx (抗がん剤)</b>	442	476	493	512	663
日本	25	26	26	26	36
アメリカス	244	269	313	338	385
中国	108	105	71	74	139
EMEA	48	51	63	55	81
アジア・ラテンアメリカ	17	24	20	18	23
<b>ハラヴェン (抗がん剤)</b>	102	98	98	97	111
日本	20	21	22	20	22
アメリカス	33	36	36	39	41
中国	9	3	0	3	6
EMEA	34	30	34	30	35
アジア・ラテンアメリカ	6	6	5	6	8
<b>その他</b>	17	18	17	16	22

## 11. 主要開発品

### (1) 神経

開発品コード： <b>E2007</b> 一般名： <b>ペランパネル</b> 製品名： <b>フィコンパ/Fycompa</b>		自社品	
薬効／作用機序：抗てんかん剤／AMPA 受容体拮抗剤		経口剤	
<p>[概要] グルタミン酸による AMPA 型グルタミン酸受容体の活性化を選択的に阻害します。部分てんかんの併用療法に対して日本、米国、欧州、中国、アジアなど 70 カ国以上で承認を取得しています。また、日本、米国および中国では、4 歳以上の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する単剤療法および併用療法での承認を取得しています。欧州では、4 歳以上の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する併用療法での承認を取得しています。全般てんかんの強直間代発作の併用療法の適応についても、日本、米国、欧州、アジアなど 70 カ国以上で承認を取得しています。欧州では 7 歳以上、日本と米国では 12 歳以上の全般てんかんの強直間代発作の併用療法での承認を取得しています。米国、欧州では、経口懸濁液の承認を取得しています。日本では、細粒剤の承認を取得しています。</p>			
レノックス・ガストー症候群（効能効果追加）	338 試験	日米欧	PⅢ

開発品コード： <b>E2006</b> 一般名： <b>レンボレキサント</b> 製品名： <b>デエビゴ/Dayvigo</b>		自社品	
薬効／作用機序：不眠症治療剤／オレキシン受容体拮抗剤		経口剤	
<p>[概要] 睡眠と覚醒の調整に関与するオレキシンの受容体に拮抗することで、覚醒状態を鎮め、速やかな入眠と睡眠維持をもたらすことが期待されます。不眠症に係る適応において、日本、米国、アジアなど 10 カ国以上で承認を取得しています。また、アルツハイマー病/認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害の適応で開発中です。</p>			
不眠症	311 試験	中国	PⅢ
アルツハイマー病/認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害（効能効果追加）	202 試験	日米	PⅡ

開発品コード： <b>BAN2401</b> 一般名： <b>レカナマブ</b>		導入品（BioArctic AB）	
薬効／作用機序：アルツハイマー病疾患修飾剤／抗 Aβ プロトフィブリル抗体		注射剤	
<p>[概要] アミロイドβ（Aβ）プロトフィブリルに対する IgG1 抗体です。神経毒性を呈することが報告されている Aβ プロトフィブリルを除去することで、アルツハイマー病（AD）の進行を抑制することを期待しています。AD による軽度認知障害および軽度 AD（総称して早期 AD）を対象としたフェーズⅢ試験 Clarity AD が進行中です。脳内 Aβ 除去後の維持療法のための新投与レジメンを確認する試験も進めています。また、利便性向上をめざし皮下注射剤の開発も進めています。Alzheimer's Clinical Trials Consortium（ACTC）と共同でプレクリニカル（無症状期）AD を対象としたフェーズⅢ試験 AHEAD 3-45 も進行中です。米国食品医薬品局（FDA）からブレイクスルーセラピーおよびファストトラックに指定されています。2022 年 7 月、FDA により迅速承認制度に基づく生物製剤ライセンス申請が受理されました。日本において早期承認取得をめざし、医薬品事前評価相談制度に基づいて独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）に申請データの提出を開始しています。Biogen Inc.と共同開発を行っています。</p>			
早期 AD	201 試験 301 試験（Clarity AD）	米国 日米欧中	◎ 迅速承認申請（2022 年 7 月受理） PⅢ
プレクリニカル AD	303 試験（AHEAD 3-45）	日米欧	PⅢ

開発品コード： <b>E2023</b> 一般名： <b>lorcaserin</b>		導入品（Arena Pharmaceuticals）	
薬効／作用機序：ドラベ症候群治療剤／セロトニン 2C 受容体作動剤		経口剤	
<p>[概要] 選択的に脳内のセロトニン 2C 受容体を刺激することにより、GABA 作動性抑制性インターニューロンを活性化し、GABA を介したシナプス抑制を増加させることでドラベ症候群患者様の発作抑制を期待しています。肥満症治療剤適応の承認を取り下げましたが、ドラベ症候群の患者様団体から要請を受けたことから、米国にて延長アクセスプログラムを継続し、さらに、適応症取得をめざすフェーズⅢ試験が進行中です。FDA からドラベ症候群に関する希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）の指定を受けています。</p>			
ドラベ症候群	304 試験	米国	PⅢ

開発品コード：E2027			自社品	
薬効／作用機序：レビー小体型認知症・パーキンソン病認知症治療剤／PDE9 阻害剤			経口剤	
[概要] 選択的なホスホジエステラーゼ (PDE) 9 阻害作用により、細胞内のシグナル伝達に重要なサイクリック GMP (cGMP) の分解を抑制し、cGMP の脳内濃度を維持することにより、レビー小体型認知症ならびにパーキンソン病認知症に対する新たな治療薬になることを期待しています。				
レビー小体型認知症・パーキンソン病認知症	203 試験	米国	PII	

開発品コード：E2730			自社品	
薬効／作用機序：抗てんかん剤・神経疾患治療剤／シナプス機能モジュレーター			経口剤	
[概要] 活性化状態にあるシナプス機能を選択的に調整する新規作用機序を持つ化合物です。希少てんかんを含むてんかんや、てんかん原性等に対する新たな神経疾患治療薬になることを期待しています。				
てんかん	201 試験	米国	PII	

開発品コード：E2814			共同創出品 (ロンドン大学)	
薬効／作用機序：抗 MTBR タウ抗体			注射剤	
[概要] 当社とユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとの共同研究を通じて見出された抗微小管結合領域 (Microtubule binding region: MTBR) タウ抗体です。タウ伝播種の脳内拡散を抑制することを期待しています。優性遺伝アルツハイマーネットワーク試験ユニット (DIANTU) が実施する臨床試験において、抗タウ薬として最初の評価対象薬に選定され、優性遺伝 AD を対象としたフェーズ I b/ II 試験とフェーズ II/III 試験 Tau NexGen を開始しました。				
アルツハイマー病	Tau NexGen 試験 103 試験	米国 米欧	PII/III PI/II	

開発品コード：E2511			自社品	
薬効／作用機序：シナプス再生剤			経口剤	
[概要] ダメージを受けたコリン作動性神経の回復およびシナプス再形成を促し、神経変性による脳萎縮を抑制することを期待しています。				
アルツハイマー病	—	米国	PI	

開発品コード：EA4017			自社品	
薬効／作用機序：がん化学療法に伴う末梢神経障害 (EA ファーマが開発)			経口剤	
がん化学療法に伴う末梢神経障害 (EA ファーマが開発)	—	日本	PI	

## (2) がん

開発品コード：E7080 一般名：レンパチニブ 製品名：レンビマ				自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／キナーゼ阻害剤				経口剤
<p>【概要】血管内皮増殖因子受容体（VEGFR）である VEGFR1、VEGFR2、VEGFR3 や線維芽細胞増殖因子受容体（FGFR）の FGFR1、FGFR2、FGFR3、FGFR4 に加え、血小板由来増殖因子受容体（PDGFR）の PDGFR<math>\alpha</math>、KIT、RET などの腫瘍血管新生あるいは腫瘍悪性化に関する受容体型チロシンキナーゼに対する選択的阻害活性を有する、経口投与可能な自社創製のマルチキナーゼ阻害剤です。単剤療法として、甲状腺がんにかかる適応で、日本、米国、欧州、中国、アジアなど 80 カ国以上で承認を取得しています。肝細胞がんにかかる適応で、日本、米国、欧州、中国、アジアなど 80 カ国以上で承認を取得しており、胸腺がんにかかる適応で、日本において承認を取得しています。エベロリムスとの併用療法では、腎細胞がんにかかる適応で、米国、欧州、アジアなど 65 カ国以上で承認を取得しています。ペムプロリズマブとの併用療法では、腎細胞がんにかかる適応で、日本、米国、欧州、アジアなど 40 カ国以上で承認を取得しており、子宮内膜がんにかかる適応で日本、米国、欧州、アジアなど 45 カ国以上で承認（一部の条件付き承認の国を含む）を取得しています。なお、欧州における腎細胞がんに係る適応においては、Kisplyx の製品名で発売しています。Merck &amp; Co., Inc., Rahway, NJ, USA（米メルク社）と共同開発を行っています。</p>				
抗 PD-1 抗体ペムプロリズマブとの併用療法 米メルク社と共同開発（効能効果追加）				
子宮内膜がん・ファーストライン	LEAP-001 試験	日米欧中		PⅢ
肝細胞がん・ファーストライン	LEAP-002 試験	日米欧中		PⅢ
メラノーマ・ファーストライン	LEAP-003 試験	米欧中		PⅢ
非小細胞肺癌（非扁平上皮）（化学療法との併用療法）・ファーストライン	LEAP-006 試験	日米欧中		PⅢ
非小細胞肺癌・セカンドライン	LEAP-008 試験	日米欧		PⅢ
頭頸部がん・ファーストライン	LEAP-010 試験	日米欧中		PⅢ
肝細胞がん（肝動脈化学塞栓療法との併用療法）・ファーストライン	LEAP-012 試験	日米欧中		PⅢ
食道がん（化学療法との併用療法）・ファーストライン	LEAP-014 試験	日米欧中		PⅢ
胃がん（化学療法との併用療法）・ファーストライン	LEAP-015 試験	日米欧中		PⅢ
大腸がん（MSI-H を有さない/pMMR）・サードライン	LEAP-017 試験	米欧		PⅢ
メラノーマ・セカンドライン	LEAP-004 試験	米欧		PⅡ
固形がん（胃がん、大腸がん、膠芽腫、胆道がん、膵臓がん）	LEAP-005 試験	米欧		PⅡ
頭頸部がん・セカンドライン	LEAP-009 試験	米欧		PⅡ
固形がん（子宮内膜がん、腎細胞がん、頭頸部がん、膀胱がん、非小細胞肺癌、メラノーマ）	111 試験 —	米欧 日本		PⅠ/Ⅱ PⅠ
抗がん剤エベロリムスとの併用療法 米メルク社と共同開発（効能効果追加）				
腎細胞がん・ファーストライン	307 試験	日米欧		PⅢ
抗 PD-1 抗体ニボルマブとの併用療法 小野薬品と共同開発（効能効果追加）				
肝細胞がん	—	日本		PⅠ

開発品コード： <b>E7389</b> 一般名： <b>エリ布林</b> 製品名： <b>ハラヴェン</b>				自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／微小管ダイナミクス阻害剤				注射剤
[概要] クロイソカイメン由来のハリコンドリンBの合成類縁体で、微小管の伸長を阻害し細胞周期を停止させることで抗腫瘍活性を示します。日本、米国、欧州、中国、アジアなど 80 カ国以上で乳がんに係る適応で承認を取得しています。また、日本、米国、欧州、アジアなど 80 カ国以上で脂肪肉腫（日本では悪性軟部腫瘍）に係る適応で承認を取得しています。				
単剤療法（剤形追加）				
	リボソーム製剤	—	日欧	PI
抗 PD-1 抗体ニボルマブとの併用療法 小野薬品と共同開発（剤形追加）				
	リボソーム製剤	120 試験	日本	PI / II

開発品コード： <b>H3B-6545</b>				自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／ER $\alpha$ 阻害剤				経口剤
[概要] 経口投与可能な選択的エストロゲン受容体（ER） $\alpha$ 共有結合型アンタゴニストであり、野生型および変異型 ER $\alpha$ をとともに阻害します。ER 陽性／HER2 陰性の乳がんに対する抗腫瘍効果を期待しています。				
	乳がん	101 試験	米欧	PI / II
	乳がん（CDK4/6 阻害剤バルボシクリブとの併用療法）	—	米欧	PI

開発品コード： <b>E7090</b> 一般名： <b>タスルグラチニブ</b>				自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／FGFR1、FGFR2、FGFR3 阻害剤				経口剤
[概要] 経口投与可能な線維芽細胞増殖因子（FGF）受容体（FGFR1、FGFR2、FGFR3）選択的チロシンキナーゼ阻害剤であり、FGFR2 融合遺伝子を有する切除不能胆管がん（胆道がんの一種）を対象にフェーズII 試験を行っています。FGFR2 融合遺伝子を有する切除不能胆道がんを予定される効能または効果として、厚生労働省よりオファンドラッグに指定されています。				
	胆管がん	201 試験	日中	PII
	乳がん	—	日本	PI

開発品コード： <b>MORAb-202</b> 一般名： <b>farletuzumab ecteribulin</b>				自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／葉酸受容体 $\alpha$ をターゲットとする抗体薬物複合体				注射剤
[概要] 既に承認されている抗がん剤エリ布林を結合した抗体薬物複合体（ADC）です。腫瘍部位にエリ布林を集中させ、葉酸受容体 $\alpha$ 陽性の子宮内膜がん、卵巣がん、肺がん、乳がんなどへの治療効果を期待しています。Bristol Myers Squibb と共同開発を行っています。				
	固形がん	—	米国	PI / II
	固形がん	—	日本	PI

開発品コード： <b>E7386</b>				共同創出品（PRISM BioLab）
薬効／作用機序：抗がん剤／CBP/ $\beta$ -catenin 阻害剤				経口剤
[概要] CREB-binding protein（CBP）と $\beta$ -catenin のタンパク質-タンパク質相互作用を阻害し、Wnt シグナルに依存した遺伝子発現を調節する CBP/ $\beta$ -catenin 阻害剤です。Wnt シグナルに依存した腫瘍増殖の抑制を期待しています。				
	固形がん（ペムプロリスマブとの併用療法）	201 試験	日米欧	◎ PI / II
	固形がん	—	日欧	PI
	固形がん（レンバチニブとの併用療法）	—	日本	PI

開発品コード： <b>H3B-6527</b>				自社品	経口剤
	肝細胞がん	—	米欧	PI	

開発品コード：E7130	共同創出品（ハーバード大学）	注射剤
固形がん	—	日本 PI

開発品コード：E7766	自社品	注射剤
固形がん	—	米欧 PI

### (3) 消化器

開発品コード：E3112	自社品	注射剤
肝臓疾患（EA ファーマが開発）	—	日本 PI

開発品コード：AJM347	自社品	経口剤
炎症性腸疾患（EA ファーマが開発）	—	欧州 PI

開発品コード：EA1080	自社品	経口剤
炎症性腸疾患（EA ファーマが開発）	—	欧州 PI

開発品コード：EA3571	自社品	経口剤
非アルコール性脂肪肝炎（EA ファーマが開発）	—	日本 PI

### (4) その他

開発品コード：FYU-981 一般名：ドチヌラド	導入品（富士薬品）
薬効／作用機序：痛風・高尿酸血症治療剤／選択的 URAT1 阻害剤	経口剤
<p>[概要] 尿酸トランスポーターの 1 つである URAT1 を選択的に阻害し、腎臓での尿酸の再吸収を妨げ、尿中への尿酸排泄を促進します。その他のトランスポーターなどへの影響が少ないため、より少ない用量で血清尿酸値を低下させ、副作用や薬物相互作用のリスクが低いことが期待されています。日本においては、2020 年 1 月に富士薬品が製造販売承認を取得しています。2020 年 2 月に中国、2021 年 8 月に ASEAN5 各国における開発・販売に関するライセンス契約を富士薬品と締結しました。</p>	
痛風	301 試験 中国 PIII

開発品コード：E6742	自社品
薬効／作用機序：全身性エリテマトーデス治療剤／TLR7/8 阻害剤	経口剤
<p>[概要] 自然免疫系の受容体である Toll 様受容体（TLR）は、活性化により炎症反応や抗ウイルス応答を引き起こします。E6742 は全身性エリテマトーデス（SLE）の発症機序に関連しているとされる TLR7/8 の経口選択的阻害剤です。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の医療研究開発革新基盤創成事業（CICLE）に採択されています。</p>	
全身性エリテマトーデス	101 試験 日本 PI/II

開発品コード：E8001	自社品	注射剤
臓器移植に伴う拒絶反応	—	日本 PI

◎ エリトランについて、日本、米国でフェーズⅢ段階にあった COVID-19 による重症化抑制を対象とした REMAP-COVID 試験を中止したため、本表から削除しました。